

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	<p>①新学習指導要領をふまえた、本校における各教科・領域のカリキュラムづくりを行う。 社会科、体育科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動における学校の特色を生かした授業づくりをする。 情報教育の推進（情報モラル、情報活用能力の向上）をしていく。 ②主体的・対話的で深い学びを旨とした授業改善を行う。</p>	<p>・新学習指導要領をふまえ、「資質・能力の3つの柱」が児童に育まれるようにするというめあてをもち、カリキュラム作りを行った。社会科、体育科、総合的な学習の時間、特別活動はとくに本校の特色をふまえたものを作成した。 ・情報教育について、職員研修やICT支援員との連携を行った。iPadや新配当の2in1パソコンを用いて、学習内容がより児童に身につくよう授業づくりを行った。主体的・対話的で深い学びができるよう、担任、担当が教材研究を行い、工夫して授業を行った。</p>	B
豊かな心	<p>①「あいさつ」が獅子ヶ谷小の伝統であることを意識し進んであいさつする姿を評価し、みんなで温かい学校づくりを推進する。 ②道徳的価値が実現できない自分も受け入れてもらえる、聞いてもらえる安心感から、自分の思いを本音で話せるようになることで自己肯定感を高め、ていく。 ③行事に加え他の授業でも地域の方々となれあひ、活動の中で出会う人とのつながりや人々の温かさや優しさにふれあえる学習を展開する。</p>	<p>・児童運営委員会を中心に「あいさつ運動」を実施し、あいさつに取り組む意識を高めたり、あたたかい学校づくりに取り組んだりした。 ・問題が起きた時に、言葉よりも先に行動に出てしまう児童がいるため、言葉で解決できるよう、今後も指導を続けていく。</p>	B
健やかな体	<p>①子どもが運動する楽しさや喜びを味わえるよう、各学年の単元の系統性を意識した学習を計画する。 ②運動委員会主導で、体を動かすことの楽しさを多くの児童に感じてもらえるように月に1回程度運動の楽しさを伝える「スポ活」の日を設定する。 ③「早寝早起き朝ごはん」に関するアンケートを行い学校としての課題を発見し、学校全体として規則正しい生活を推進する。</p>	<p>①今年度はカリキュラムの作成を行った。来年度より、作成したカリキュラムを意識して学習を計画していく。 ②運動委員主導で行ったスポ活は一部の児童に対しての効果は見られたが、児童全体の運動量の確保という面では効果は見られなかった。そのため、来年度はスポ活と並行して、昨年度まで行っていたチャレンジクラブのように、ある程度の強制力があるものを行い、児童全体の体力の保持進進や運動の楽しさを伝えることを図っていく。</p>	B
児童指導・特別支援教育	<p>①配慮を要する児童のアセスメントと具体的な支援を全職員で共有する機会を年間3回実施し、指導に生かすとともに、どの職員も同じ対応ができるようにする。 ②新しい形式となった個別の教育支援計画、本校独自の個別の指導計画を、通級指導教室で指導を受けている児童、特別支援教室で指導を受けている児童について、保護者とともに作成していく。</p>	<p>・配慮を要する児童の具体的な支援については、計画していた年3回の他に、大きな行事の前にも行い、どの職員も同じ対応できるように研修した。 ・個別の教育支援計画は、面談等で保護者と共通理解をした上で、対象児童について新しい形式で作成した。特別支援教室で指導を受けている児童についても作成を呼びかけてきた。</p>	B
望ましい集団活動	<p>①子どもが他学級、他学年の教師と関わることができる機会である、児童会活動、クラブ活動、学校行事においては、教師間の連携・協力を大切にする。学級活動においては、活動によって養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員、学校図書館司書などが、学級担任とともに指導にあたる。 ②活動においては、子どもの自主性を重んじ、主体性を育めるようにする。</p>	<p>①子どもが他学級の教師との関わりや、教師間の連携や協力はできていた。学級活動でのつながりとして、養護教諭や学校栄養職員とは、6年生のバイキング給食のみの関わりしかなかった。 ②委員会活動では、子どもたちの主体性は見られたが、クラブでは、教員間での子どもたちに主体的に取り組ませられるようにする、共通理解が必要だと感じられた。</p>	B
自分づくり教育 キャリア教育	<p>①地域の豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努め、体験学習を通して、地域の「人」とのつながりを意識し、指導にあたる。 ②「横浜の時間」を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。 ③学年に応じて、地域住民や企業がかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。</p>	<p>・地域の自然や人のかかわりを通じ、地域に親しみを感じたり、地域と進んで交流しようという思いをもてるようになってきた。 ・体験的な学ぶ機会を設け、活動できた。児童が自分事として考えたり、自分ができることを考えていけるよう指導して必要がある。 ・地域住民や企業の方とのかかわることはできた。働く人々の生き方に触れることで、自分と向き合い、自分の生き方を考えられるように学習を進めていく必要がある。</p>	A
環境教育	<p>①安全訓練を通して、児童が災害から自分の身は自分で守るという意識をもつことができるように指導にあたる。 ②毎月安全点検を行うことで、児童が安全な環境で活動に取り組むことができるようにする。 ③毎月のエコキャップ回収運動やごみの分別チェック、毎日の牛乳パックリサイクル活動などを通して、環境保全の意識を高める。</p>	<p>①年間の安全訓練を通して、児童の災害に対する意識は多少は向上したが、まだまだ不十分である。 ②毎月安全点検を行うことで児童が安全な環境で学習活動に取り組むことができた。 ③左記の活動を通して、環境保全の意識を高めることができた。</p>	B
地域連携・学校運営協議会	<p>①家庭、地域、関係機関との連携を図り、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へとつなげる。 （授業サポート、見守り隊、情報教育） ②「学校だより」のほか、「学校HP」の内容を充実させ、学校の情報発信に努める。 ③教育懇話会で各地域の代表者の方々や学校運営協議会の意義と役割について共有し、2020年度の協議会設置に向けた準備を行う。</p>	<p>①見守り隊の発足、40周年記念事業の実施、3年のスーパー見学、防災・防災出前授業、本年度までとなった稲作体験活動など、地域力を生かした教育活動ができた。 ②「学校HP」により本校の教育活動について積極的に発信できた。 ③学校運営協議会の研修を受講し、発足に向けて今後も準備を進めていく。</p>	B
いじめへの対応	<p>①学年研ごとに、いじめ防止に向けての情報共有を行う。その情報を、児童指導部で共有し、専任が取りまとめ、対応にあたる。 ②毎月行われる「いじめ防止対策委員会」において、各学年の情報を、学校全体で共有し、対応にあたる。 ③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を、専任が中心となり、学年や学級で積極的に活用する。 ④いじめ防止アンケートを数回行い、いじめの未然防止及び、早期発見、解決に役立てる。</p>	<p>①②については専任のリードによりおおむね取り組むことができた。来年度以降の課題としては、今年以上に学年研に専任が参加し学年全体としていじめ防止に取り組んだり、アンケートや子どもとの面談、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の取組をさらに増やしたりして、いじめの早期発見、未然防止に取り組むたいと考えている。</p>	B
人材育成・組織運営 （働き方改革）	<p>①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって年7回の活動を実施し、経験の浅い職員とミドルリーダーの育成を図る。 ②教務会、学年主任会を月1回定期的に開催し、共通理解を図ることで学校運営を組織的に進める。 ③グループウェアの活用を促進し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。</p>	<p>・学校を取り巻く今日的課題や、経験年数の浅い教職員のニーズに合った年間計画を立て、定期的に研修を実施し、とても有意義な時間を共有することができた。 ・諸会議の精選やグループウェアによる情報の共有化を促進することで、少しずつではあるが、事務処理に関わる作業や時間が軽減されつつある。</p>	A
ブロック内評価後の 気づき	<p>○小中研究会では丁寧な情報交換を行い、中学校での生徒指導が充実してきている。○学習面では、中学生に自主的に学ぼうとする意欲の高まりや、自分の意見を堂々と発表できる場面が増え、小学校でのグループ学習などの成果が表れてきていると考えられる。○生活面では、教室や廊下など身の回りの生活環境を整えることで、さらに落ち着いた状況を作っていくことができるだろう。 校舎内の環境整備・整理整頓については、さらに意識して取り組んでいきたい。今後も引き続き、「同じ地域で学ぶ子どもの育成に関わっている」という意識を持ち続け、指導・支援を心がけていきたい。</p>		
学校関係者評価	<p>時代の流れと共に変化する社会の中で、子ども、職員、保護者も代わってきているが、学校はその時代にあったニーズに応じて教育活動を行ってきている。ICT教育の導入や稲作活動の転換、来年度に向けた行事の時期変更など、今後につながる大きな変更点があるが、学校がよりよくなるよう期待して見守っていききたい。地域、PTA、キッズクラブ、学校開放は、学校と効果的な連携が図れるよう働きかけていく。</p>		
中期取組目標 振り返り	<p>○地域・保護者との連携を通して、子どもたちは様々な人たちと関わりをもたせていただき、充実した教育活動を行うことができた。 ○問題行動への指導や特別支援に関しては、全校あげての取組を通して、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる環境となるよう努力をした。 ○新学習指導要領の全面実施に向け、行事等の計画や準備を進め、教科等のカリキュラムを作成した。教師の一層の授業力向上に努力したい。 今年度は、40周年記念事業を通して、子どもたちが獅子ヶ谷小学校や地域への関心をもち、総合学習などを通して主体的に学ぶことができた。</p>		